

**今後の国土数値情報の整備のあり方に関する検討会 第7回会合
議事要旨**

1. 日時・場所

2024年7月4日（木）14：00～16：15

場所 株式会社三菱総合研究所 CR-D+E 会議室（オンライン併用）

2. 出席者（敬称略、委員五十音順）

（委員）

秋山委員、桜井委員、杉本委員、瀬戸委員（座長）、高木委員、西澤委員、溝淵委員

（事務局）

国土交通省 政策統括官付 地理空間情報課

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社 社会システム事業部

3. 議事

【討議】

- （1）今後の国土数値情報の整備・提供方針 最終とりまとめ案について
(資料3-1、3-2、3-3)
- （2）実施中の取組報告（資料4）
- （3）今後の予定（資料5）
- （4）国土数値情報周辺のトピックについて（参考資料1、参考資料2、参考資料3）
- （5）意見交換

【クロストーク】

- ・各委員より話題提供（資料6-1、6-2、6-3 及び投影限り資料）

4. 議事要旨

【討議】

事務局より国土交通省の7月1日付け組織再編・人事異動について説明後、前回（第6回会合）議事要旨の確認を行った。その後、事務局より今後の国土数値情報の整備方針 最終とりまとめ案について説明が行われた。続いて、事務局より国土交通省にて実施中の取組報告、今後の予定、国土数値情報周辺のトピックについて説明が行われた後、「今後の国土数値情報の整備・提供方針 最終とりまとめ案」（以下、整備方針案）、および、取り組み・今後の予定、それぞれについて質疑・意見交換等が行われた。

これらの概要は下記のとおりである。

- ・ 整備方針案に対する追加の意見はない。
国土交通省の取組報告及び今後の予定に対するコメントは2点ある。1点目はデータの商用利用について、ライセンスビジネスを実施する民間事業者としては、一般的にトラブル回避のため商用利用不可のデータの利用は避ける傾向にある。そのため、原則はすべてのデータを商用利用可能とする方が分かりやすく、原典所有者の自治体に対する説明が重要と考える。2点目は民間保有の情報利用における問題であり、オープン化とクローズ化を使い分けるオープン・クローズ戦略が重要と考える。
- ・ 整備方針案の記載内容には異論はない。
整備方針案（資料3－1、p.20）に関して、全シェープデータの属性一覧リストがあるとデータ利用の利便性が高まるが、現在の国土数値情報ダウンロードサイトだと個別データのページにしかリンクがないのでデータ一覧の箇所など分かりやすい場所に掲載してほしい。
- ・ 整備方針案への追加の意見はない。
資料5「今後の予定」について、特にデータ活用コンペに期待しており、参加者の許可を得て SNS 上での配信も実施できれば盛り上がるのではないかと考える。今後の展望に関して、民間企業の立場、GIS 学会の立場で、引き続き協力していきたい。
- ・ 整備方針案に対する追加の意見はない。
国土数値情報の個々のデータ仕様のワンストップ化に賛同する。
また、本検討会でとりまとめた内容も対面のイベントやコンペ等で積極的に発信するとともに、GIS 学会など様々なイベントと連携し、国土数値情報の社会的な存在感を高めていきたい。
- ・ 整備方針案に対する追加の意見はない。
民間企業の立場からは、「メンテナンス」をキーワードに活動を継続してもらいたいと考える。また、データを使うユーザー及び企業との対話の場は定期的に持っていただきたい。不動産建設データ活用推進協会では、データサイエンティストが集まる GIS・人流委員会も運営しており、分析を行うエンジニア職の話も伺っているところである。
- ・ データ公開による安全保障上のリスクについて明確に定まっていなかったなかで、整備方針案（資料3－1、p.15）で、安全保障上の留意点について、「国全体の誤論を踏まえて対応を

検討する」と現段階であまり踏み込んだ表現ではなく、記載可能な範囲で盛り込んでいただいたことは、個人的には安心した。

資料5「今後の予定」について、SNS(X)を活用した効果的な発信を継続いただくとともに、例えば WebGIS サービス「open-hinata」を開発・運用する個人など、国土数値情報を積極的に活用している方とも意見交換できるとよい。

商用利用可能なデータは多い方が望ましいため、自治体の立場からの情報提供など、貢献できることがあれば気軽に相談いただきたい。

- ・ 整備方針案については、追加の意見はない。
「open-hinata」の他にも、例えば「全国 Q 地図」など、国土数値情報や自治体のオープンデータを統合的に可視化・運用し、ジオコミュニティで話題になっている個人開発者もいる。こうした草の根的に活動している方の活動は、SNS(X)でリポスト（拡散）することもできるとよいが、対話などによって改善点に係る意見や情報発信などの意見を伺いつつ、官側と距離感を近くしていただくとコミュニティとしての広がりが期待できると思う。また、国土交通省による情報発信のチャンネルの持ち方も、SNS 等様々あると思うので、継続的に検討いただきたい。
- ・ 整備方針については、追加の意見があれば本日より 1 週間以内を目安に事務局までお寄せいただきたい。追加意見も伺った上で、事務局と座長で調整し、最終的には座長一任にて確定とさせていただきたい。（瀬戸座長）
 - ・ （座長一任での決定について、委員一同より了承をいただいた。）

【クロストーク】

- ・ 杉本委員からは、デジタルツインを実現する上での基盤となるデータの重要性に関する内容と、国として基盤整備を行うことによって個々の自治体で判断が分かれることなく一律での整備が行われ、国土数値情報を含めたデータの活用も進むとの将来展望について説明があった。
- ・ 溝淵委員からは、地理空間情報の整備における AI の利活用による精度管理の将来展望について説明があった。
 - 話題提供に対して、成果検証における AI 活用の可能性や、AI 活用によって精度が多少落ちる場合でも更新頻度が大幅に上がる場合はメリットになりうる等の意見があった。
- ・ 高木委員からは、オープンデータ化の進展における民間コンテンツの今後のあり方や、今後のオープンデータ化を期待する公的部門の情報について将来展望について説明があった。

- ・ 桜井委員からは、海外の不動産分野における生成 AI の活用進展の状況等の生成 AI の活用に関して現状及び将来展望について説明があった。
- ・ 西澤委員からは、選挙ポスター掲示板の位置情報の現状、位置情報を GIS データ化した場合の効果に関する考察、都知事選における選挙ポスター掲示板の位置情報の活用事例について説明があった。
- ・ 秋山委員からは、国土数値情報を盛り上げるために必要なループ（循環）と、ループを実現するための施策案について説明があった。
- ・ 各委員からの話題提供を受けて、矢吹課長より、データを活用する社会においては信用できるデータの価値が相対的に高まると考えられること、地理空間情報の精度管理に関するゲームチェンジの可能性があること、平時にデータが整備されている社会は強靱な社会であること、運輸等の課題を持っている部署で地理空間情報の重要性が認識されることでデータの活用が進展し国土数値情報の充実にもつながりうることなど、今後の展望が説明された。

5. その他

討議の後、事務局より本日の資料、議事要旨、整備方針の最終版の公開について説明するとともに、クロストークで用いた資料のうち共有可能なものは事務局まで送付いただきたい旨を依頼した。

以 上